

鈴鹿市雨水管理総合計画

●雨水管理総合計画

雨水管理総合計画は、下水道による浸水対策を実施する上で、当面・中期・長期にわたる、下水道による浸水対策を実施すべき区域や目標とする整備水準、施設整備の方針等の基本的な事項を定めることで、下水道による浸水対策を計画的に進めることを目的として、策定しました。

これまでは・・・

- ・計画区域全域において一律の整備目標で整備を進めることを基本
- ・汚水計画区域にあわせて雨水計画区域を設定（浸水被害の実情を未考慮）

効果的な浸水対策が行えず、雨水整備が進まない

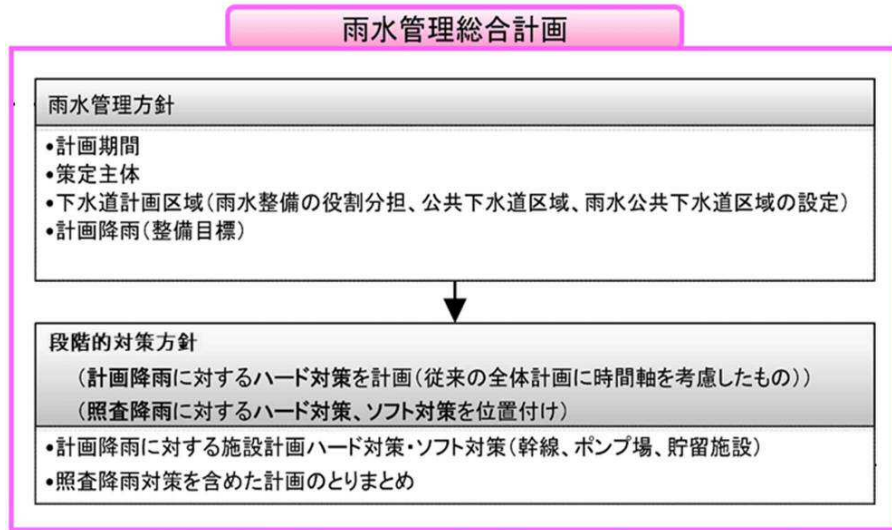


これからは・・・

- ・浸水被害を想定し、浸水リスクに応じた目標を設定
- ・浸水対策を実施すべき区域を明確化し、期間を定めて集中的に実施

優先順位・手法・スケジュール等を明確化し、効果的、効率的な下水道による浸水対策を進める

雨水管理総合計画は、地域ごとの雨水整備目標等を定める「雨水管理方針」と、施設整備の進め方を定める「段階的対策方針」で構成されています。



●鈴鹿市総合雨水対策基本計画との関係

本市では、平成31年3月に鈴鹿市総合雨水対策基本計画を策定し、河川や下水道の雨水対策（ハード対策）に加えて、施設の維持管理や防災情報の提供等のソフト対策を合わせて実施し、公助と自助を総合的に展開する浸水被害軽減策を取り組んでいくこととしています。同計画では、再度災害防止の観点から、近年、最も甚大な浸水被害が発生した平成24年9月30日降雨で床上浸水被害が発生し、浸水対策の重要度が非常に高い地区を重点地区（Aランク）に、過去に床下浸水被害や道路冠水が発生し、浸水対策の重要度が高い地区を重点地区（Bランク）に定め、これらの区域を中心に雨水整備を進めています。

雨水管理総合計画は、上記計画の下水道（雨水）対策に関して、「事前防災の観点」から、これまでに浸水被害の発生していない地域を含め市内の浸水リスクを評価し、優先度の高い地域を中心に計画的な対策が進められるよう浸水対策を実施すべき区域や目標とする整備水準等の見直しを行い、効果的、効率的な下水道による浸水対策を進められるよう検討します。

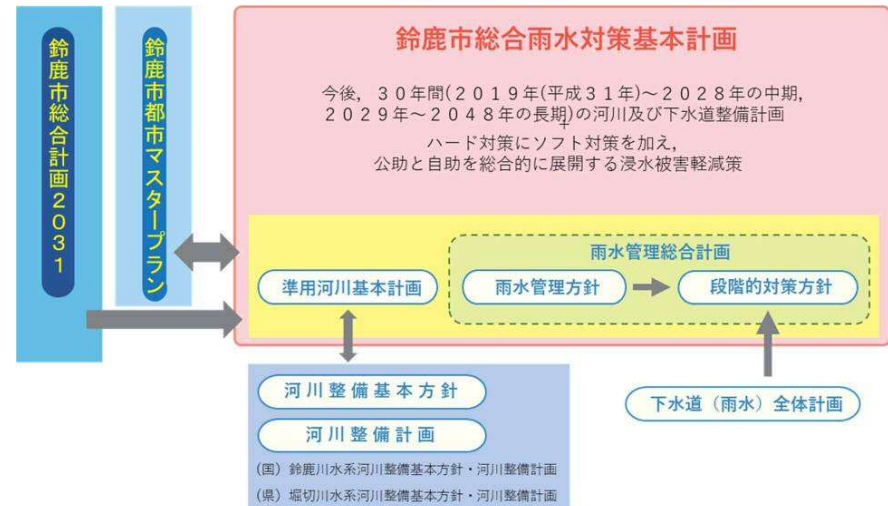


図1 雨水管理総合計画と鈴鹿市総合雨水対策基本計画の関係

【雨水管理方針】

●計画期間

鈴鹿市総合雨水対策基本計画との整合を踏まえ、当面（10年後）が2026年度から2035年度まで、中期（20年後）が2036年度から2045年度とし、2046年度以降を長期とします。

●計画降雨（整備目標）

計画降雨（L1降雨）は、今後の気候変動による影響を考慮し、時間雨量73.8mm/hrとします。照査降雨は再度災害防止の観点から、鈴鹿市における既往最大降雨である平成24年9月30日降雨（L1'降雨、時間雨量92.0mm/hr）と、水防法で位置付けられる想定最大規模降雨（L2降雨、時間雨量147.0mm/hr）を設定します。

●リスク評価と浸水対策実施区域の選定

浸水対策を優先的に実施する地区については、浸水リスク（脆弱性）と都市機能集積度（重要度）、整備水準（緊急性）を点数化し、脆弱性×重要度の点数と緊急性の点数が高い地区（リスク最高、リスク高に該当する排水区、下図の場合、ブロック1、ブロック3が該当）から選定することを基本とします。



図 2 浸水対策を優先的に実施する地区の選定について

●対策目標

対策優先順位の高い排水区（優先地区）はL1降雨に対して浸水軽減効果を発現するためハード対策を実施し、段階的に浸水軽減を図ります。

また、対策優先順位の高い上位の排水区（重点対策地区）はL1'降雨において床上浸水被害が発生していることから、再度災害防止のためにハード対策を実施し、段階的に床上浸水の解消を図ります。

L2降雨は、想定される最大規模の降雨であり、ハード対策で浸水軽減を図ることが困難なため、ソフト対策による人命の確保を目標とします。

なお、上記以外の区域（一般地区）は当面、中期においてはソフト対策での対応を基本とします。

表 1 段階的対策目標

	対象降雨	当面の目標 (10年後)	中期の目標 (20年後)	長期の目標 (全体計画完了時)
L1 計画降雨	下水道計画降雨(73.8mm/hr) ※気候変動の影響を考慮した雨量	浸水対策実施区域における 床下浸水の軽減	浸水対策実施区域における 床下浸水の解消	すべての排水区で 床下浸水の解消
L1' 照査降雨	既往最大降雨(92.0mm/hr) ※平成24年9月30日降雨	重点対策地区における 床上浸水の軽減	重点対策地区における 床上浸水の解消	すべての排水区で 床上浸水の解消
L2 照査降雨	想定最大規模降雨(147.0mm/hr)	人命の確保		

●対策方針

当面・中期・長期の各段階の整備目標に対して、本計画で位置付けるハード対策の計画的な実施と鈴鹿市総合雨水対策基本計画において位置付けられたソフト対策を組み合わせることで、浸水被害の軽減を図ります。

【段階的対策方針】

浸水対策実施区域について、当面、中期の各段階の整備目標が達成されるよう下水道（雨水）全体計画で位置付けられた幹線整備やポンプ場整備を進めます。また、上記の整備のみで対策目標が達成されない箇所は、局所的な面整備により目標達成を図ります。

優先度の高い排水区より、鈴鹿市総合雨水対策基本計画に基づく整備と連携しながら施設整備を進めます。また、その他の排水区を含めた市内全域を対象として、ハザードマップの作成など浸水被害の軽減につなげるためのソフト対策を同時に進めます。

実施時期	番号	排水区名	整備概要
当面	①	【金沢排水区】 六郷、西条、金沢川	雨水幹線整備
	②	白子中央排水区	雨水ポンプ場整備
	③	十宮須賀排水区	雨水幹線
	④	安塚南部第1排水区	雨水幹線、雨水調整池整備
	⑤	下箕田南部第1排水区	雨水幹線整備
	⑥	下箕田北部排水区	雨水幹線整備
	⑦	中箕田排水区	雨水幹線整備
	⑧	ひばりが丘排水区	雨水幹線整備
	⑨	一ノ宮中央排水区	雨水幹線整備
	⑩	長太中央排水区	雨水幹線、雨水ポンプ場整備
中期	⑪	【金沢排水区】 金沢川、三日市北部第1	雨水幹線整備
	⑫	磯山排水区	雨水幹線、雨水ポンプ場整備
	⑬	稻生西部第5排水区	雨水幹線
	⑭	【田古知川排水区】 玉垣東部第4	雨水支線
	⑮	小山排水区	雨水支線

上表の番号は別途掲載の雨水管理総合マップと対応した番号

鈴鹿市雨水管理方針マップ

【対策目標】

市内全域において時間 73.8 mm降雨に対して床下浸水の解消（全体計画完了時）
 浸水対策実施区域においては今後 20 年間で時間 73.8 mm降雨に対して、床下浸水の解消
 重点対策地区は、今後 20 年間で時間 92.0 mm降雨に対して床上浸水解消

【浸水対策実施区域】

（重点対策地区）

浸水対策実施区域のうち、平成 24 年 9 月 30 日の降雨（時間 92.0 mm）で床上浸水が発生し、甚大な被害を受けた区域

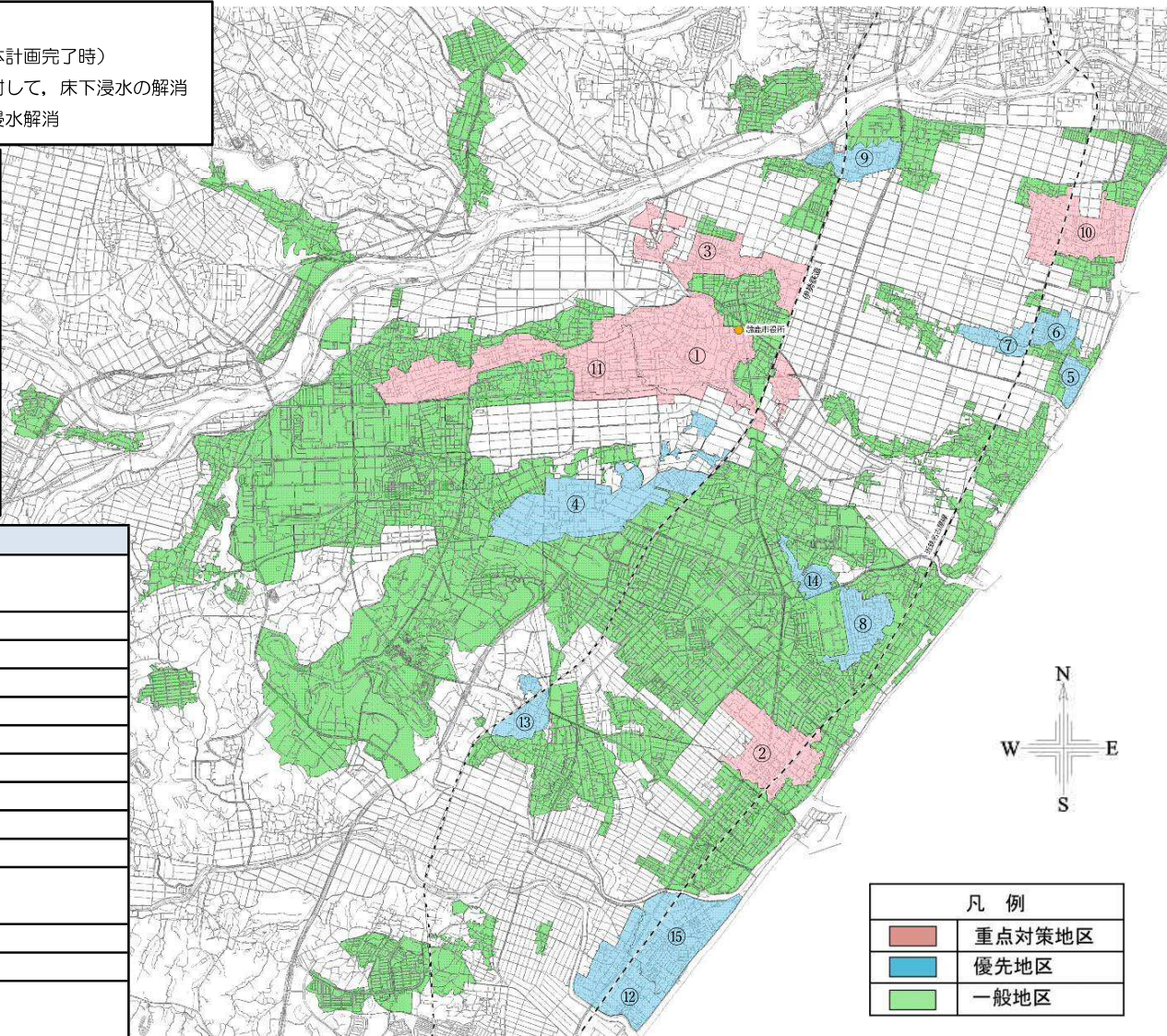
（優先地区）

浸水リスクや重要度が高く、整備水準が低いため、優先して雨水排水施設の整備を進める区域

【浸水対策実施区域外】

（一般地区）

今後 20 年間は主にソフト対策により浸水被害の軽減を図る区域



実施時期	番号	排水区名	整備概要
当面	①	【金沢排水区】 六郷、西条、金沢川	雨水幹線整備
	②	白子中央排水区	雨水ポンプ場整備
	③	十宮須賀排水区	雨水幹線
	④	安塚南部第1排水区	雨水幹線、雨水調整池整備
	⑤	下箕田南部第1排水区	雨水幹線整備
	⑥	下箕田北部排水区	雨水幹線整備
	⑦	中箕田排水区	雨水幹線整備
	⑧	ひばりが丘排水区	雨水幹線整備
	⑨	一ノ宮中央排水区	雨水幹線整備
	⑩	長太中央排水区	雨水幹線、雨水ポンプ場整備
中期	⑪	【金沢排水区】 金沢川、三日市北部第1	雨水幹線整備
	⑫	磯山排水区	雨水幹線、雨水ポンプ場整備
	⑬	稻生西部第5排水区	雨水幹線
	⑭	【田古知川排水区】 玉垣東部第4	雨水支線
	⑮	小山排水区	雨水支線

※重点対策地区は①②③⑩⑪の地区